

令和3年度第1回地区別需給情報連絡協議会 アンケート結果

【3. 協議会の活動について】

目次

1. 今年度の地区別需給情報連絡協議会への意見、議論したい内容など..... 1
2. 今年度の支部別需給情報連絡協議会（又は類似の会議）の開催状況..... 6

1. 今年度の地区別需給情報連絡協議会への意見、議論したい内容など

(地区)	(回答)
北海道	<ul style="list-style-type: none">● 協議会で検討した成果が実感できるようにしてほしい。● ウッドショックに対する各事業体の見通しを聞きたい。● ここ1・2年の間で、国産材の減産から増産に急激に転換を求められているところだが、対応ができていない部分もある。このような減産や増産の両方の経験が今後に向けて活かされるよう意見交換等を行うことも必要かと考える。● ウッドショックへの対応を探ることも必要と考える。また、その後の対応策の検討も必要と考える。● 脱炭素に向けた取組。 バイオマス燃料の調達基盤拡大について。● 国産材を一定量使用する仕組みを作り、業界でコンセンサスを取っていくことが必要ではないかと考える。● それぞれ地区により需給の状況に違いがあり、その状況が分かるので、継続していくのが良いと思う。● 輸入材(丸太、製品)の国内、道内への入荷状況や、今後(特に令和3年度後半)の入荷見通しについての情報を提供いただきたい。 輸入材の価格高騰・入荷減は、本道の林業・木材産業にとって、道産建築材のシェア拡大のチャンスでもある。 ウッドショックが落ち着いた後も一定の割合で道産木材のシェアを維持・拡大していくには、供給者と需要者の信頼関係の強化が必要と考えている。 道では、今後道産木材の建築分野の利用拡大に向け、プレカット工場に聞き取り調査を行っているところだが、相互の連携強化にはどのようなことが必要となるのか、木材加工事業者、建設関係の皆様のご意見を伺いたい。
東北	<ul style="list-style-type: none">● 東北管内の大型木材加工施設等で、他県産原木でも集荷したい場合の樹種・仕様等の条件を知りたい。● 今回の議事にもあるが、ウッドショックの影響がこの先どうなるか不透明であり、需給情報や対応状況等を今年度はしっかりと見極める必要があるかと思う。● 全国並びに東北地方における木材の需給情報、価格の変化、今後の見通し等。● ウッドショックの影響について(需給バランス、価格の動向等)。● 外材から国産材への切り替えについて(特に乾燥材不足について)。● 逼迫しているところと余裕があるところの均衡を図るための調整機能について。

関東

- 相場の激変期の情報発信に期待。
- 需給量を数字化した資料が欲しい。
- 状況の変化が速いため、会議だけでなく、迅速に時宜を得た情報提供をお願いしたい。
- 再生エネルギー、SDGsなど一般社会にも内容は浸透されつつあるなかで、7年前からはじまっている木質バイオマスFIT運用が曖昧な管理のまま続けることは社会的に許されなくなっていくと思う。本会でも議論していただき業界内で自浄作用が働くようにして頂きたいと思う。
- 各地区の需給連絡協議会の垣根を取り払った情報共有ができるようにならないか？実際に取引をしている相手が、他地区の協議会をまたいでいる等全体の需給情報が入手しづらいのが現状である。
- 最新の需要動向の情報提供をお願いする。
- 事業者団体として各自治体、会員業者への要望、及びアドバイスをどのように実施しているか。素材生産業者、団体への生産量アップ等の依頼、働きかけを事業者団体としてどのように実施しているか。
- 情報収集の場として活用したい。
- 苗木生産(生産者)においては、昔から生産だけを考えてきたが、連絡協議会での多面に渡る動向等を知る様になり、情報交換の場として、また幅広い視野に立つことで知識を深めることができている。今年度、後継者の研修に、合板会社見学等を考えている。苗木生産だけにとらわれず、広い視野に立って良質の苗木供給の責任を果たしていこうと考える。
- 今後の国産材流通の見通しについて。
- 世界の木材需要の動向と見通しについて
- 協定販売を行っている原木市場の現在の状況について。
- オール国産材に近い住宅の木材供給を考えた、需要と供給のバランスの取れた循環型システムを構築したい。
- 産地・樹種・部材毎の価格高騰の程度。
- 木材不足から代替が進んできているが、樹種・部材における代替の状況。
- 樹種代替における課題(強度・精度や代替によるさらなる不足等)。
- 国の木材需給会議が終了したことに伴い、協議会で主要木材の需給及び市況動向の見通しを公表していただきたい。
- 今後、国内外の木材需給情勢が大きく変化していくことから、同様のアンケート調査を定期的に行い、情報共有を図ってはどうか。
- 木材の不足情報があれば、リアルタイムでいただけると助かる。例えば「ヒノキ 36cm 上の 4m 材が関東で品薄…」など。当県では、素材生産業者が欲しがっている情報となる。
- 木材生産の増産についての対策を実施している自治体があればその内容をご教示いただきたい。需要側がどんな製材品等を求めているのか正確な情報を知りたい。(含水率や強度、寸法、価格、量など。
- ウッドショックによる川上・川中・川下事業者への影響と対応について。

中部

- FIT 制度で電力を販売するバイオマスボイラーの稼働が全国で増えている。脱化石燃料のこの動きが今後に加速すると予想され、燃料向け需要の高まりで国内木材価格の値上がり、品薄感が更に強くなると想定される。現在の国産材丸太価格の値上がりも、川下側の需要増に川上側が対応できていないことが背景にあり、今後の燃料向け需要に対応していくためにも、出材量の増加・安定した出材量の維持が必須で、このためには林道等のインフラ整備に加え、山林作業労務者の増員が必要と思われる。川上側へのアプローチは独自に進めるも問題が根深く、大きな進展が見込めていない。国産材丸太が中国向けに輸出されていることは、国内企業が買い負けていることにあり、この背景には木材加工会社がコストを負担することが出来ないこと、国際競争力のある商品に加工できていないことにあると思われる。この課題解決は個々の努力では難しく、国策として国産材利用への支援が必要と考える。現在の進め方の問題の共有・意見交換だけでは問題解決に向けての進展が期待できないと考える。大型製材所等の稼働等により、川下側の設備は整ってきていることから、川上側の取組みを議論する必要があると考える。
- 外材の入荷不足と価格高騰に関する確実な情報の共有と短期、長期の具体的な対応を検討すべき。
- 木材高騰による今後の見通しの情報共有。
- 地産地消の強化と県産材の素材生産量の増加。
- 各方面からの情報をいただきたい。

- 外材の需給情報と関連する国産材の動き、またそれらに対する対応策についての検討をお願いする。
- 川上から川下までが一体となり、利害関係を乗り越えた SCM 構築に資する情報交換の場の提供、方向性についての議論の場となるように先進事例、タイムリーな話題や情報について意見を交換したい。
- 毎回、議論百出されている原木の安定供給体制について憤懣。国内需給が不安定の最中、原木の姿のままするのでなく付加価値を高めて輸出すべき。規格に対応でない製品もあると思う。国内の産業の発展安定が主役である。
- 今回のような WEB 会議も当面はやむを得ないと考える。
- 今後とも情報の共有を進めるためにも、年に二回は開催して欲しい。互いの立場を共に共有しながら共存共栄で進めていきたい。川上、川中、川下が一体となって循環型社会を構築していきたい。
- 安定的な原木等の出材を行って頂くように、様々な分野へ要望をして頂きたい。
- コロナが落ち着けば、各地区の需給連絡協議会に地元選出の国会議員にも参加してもらおうべきと考える。これだけ広範囲の事業者が集まり議論に参加いただき、森林・林業・木材産業を国民とともに盛り上げるべきと考える。
- 原木供給量の増加と安定供給。
- ウッドショックによる影響が広がるおそれがあるので、対面も含めて開催回数を増やし情報共有の場を設けたほうが良い。
- いわゆる「ウッドショック」による輸入材製品の価格上昇と需給ひっ迫が生じており、これまで以上に県を越えた情報共有が重要になると考えている。
- ウッドショックの影響について。
- ウッドショック後の中長期的な対応。国産材へのシフトを進める上での課題。
- ウッドショック後の対応(外材偏重の流れだったが今後どのような動きになるか)。
- 例えば、ウッドショックの影響による国産材、県産材の需要や調達の状況などの木材需給の最新の情報を適宜、会員へ情報提供していただきたい。

近畿 中国

- 国産材原木の安定的確保。
- 木材業界は木材産業を地場産業であることを再認識することが必要である。ウッドショックと呼ばれるように諸外国の影響を受ける資源・業界であることは間違いないが国内の各地域で地域性を持った林業があり、持続性を持って進めていく為にも各事業体はそれぞれの地域で山側への還元を考えた業態を取る必要がある。その為にも協議会は地域林業を画一的に捉えないように議論し、川下、川中、川上とで情報共有出来る体制作りを行い、地域林業が持つ課題や問題を広く発信する必要があると考える。
- コロナ影響の見通しについてより多くの情報を得ることができればと考えている。また、今後の対応について方向性を見出すことができればと考えている。
- 今回のような、原木不足、価格高騰の際には需給情報や市況等共有し、ある程度隣県との価格差が発生しないよう調整が可能になるとよい。
- 今回のウッドショックと呼ばれる外材の入荷量激減、価格高騰に伴い、代替品としての県産材・国産材製品、原木への引き合いが急速に高まっており、県産材・国産材の供給拡大のチャンスと捉える声もあるが、現場での単純な増産は容易ではないと思う。KD材の替りにグリーン材で代替する動きもあるが、中長期的な視点から、市場が求める良質な木材の生産体制を整えていかないと、将来的な林業・木材産業の成長産業化は実現できないと考える。急激な需給変化で、業種・業態や会社の規模・経営方針によって、業況や採算・設備操業率などが二極化しつつあるように感じるが、今回のウッドショックに振り回されずに、林業・木材のバリューチェーン構築の在り方、試みの議論を引き続きしっかりやっていくべきだと思う。
- 夏場以降の需要動向はどうなるのか？
ロシアが丸太の完全輸出禁止になった場合どういう影響がおきるのか？
- ウッドショックによる国産材需要への影響。
- 輸入比率の高い製材品代替として、安定的に国産材を供給していくための各地域の取組。
- 人手不足が深刻化するなか、民間企業における労働者不足の実態と労働者確保に向けた取り組みについて情報共有を図るのはいかがか。

- 昨今のウッドショックに係る素材生産、製材・加工、流通事業者の現況・対策、今後の見通しについて情報共有をお願いしたい。
- ウッドショックとも呼ばれる輸入木材の価格高騰・品薄が顕在化し、国産材への引き合いが強まるなど、木材需給は大きく変動している。今後の先行きは不透明ではあるが、当面は、国産材の供給能力強化に向け、木材加工の効率化・木材流通の合理化・原木生産基盤の強化・木材搬出の促進といった取り組みを着実に進める必要があると考えられる。本協議会の活動により、事実の共有（木材等の需給動向など）を図るとともに、それぞれの業種を取り巻く現状や、これからの需給見通し、木材等を消費する川下側の状況などについて、幅広い議論・意見交換が行われることを希望する。
- 新型コロナウイルス感染症の拡大による需給量及び価格への影響について
- ウッドショックにかかる当地区での影響や今後の見通しについての情報共有
- 令和2年度はコロナ禍による木材需要減退による木材（特に原木）価格が下落、その後、ウッドショックによる木材の不足と価格の上昇など、木材需給状況が大きく変化しているなか、近隣地域の幅広い分野の事業者からの情報を共有できる良い機会なので、他府県の状況や取り組みについて情報提供頂きたい。
- 昨年来、木材業界における状況変化が激しいため、川上から川下までの木材関連業者のタイムリー需給情報等を共有する仕組みの検討をお願いする。

四国

- 外材の動向について情報が定期的に欲しい。
- 他県の苗木需給状況（苗木の過不足の見通しなど）。
- 認証材（PEFC・FSC）の取り組みについて。
- コロナ禍で開催など運営が難しいと思われるが、活動が失速しないよう引き続きご尽力をお願いする。
- 意見を集約してどう現実化していく事が大切ではないか？今までの協議会活動をむだにしない為にも！！
- FIT 制度で電力を販売するバイオマスボイラーの稼働が全国で増えている。脱化石燃料のこの動きが今後に加速すると予想され、燃料向け需要の高まりで国内木材価格の値上がり、品薄感が更に強くなると想定される。現在の国産材丸太価格の値上がりも、川下側の需要増に川上側が対応できていないことが背景にあり、今後の燃料向け需要に対応していくためにも、出材量の増加・安定した出材量の維持が必須で、このためには林道等のインフラ整備に加え、山林作業労務者の増員が必要と思われる。川上側へのアプローチは独自に進めるも問題が根深く、大きな進展が見込めていない。国産材丸太が中国向けに輸出されていることは、国内企業が買い負けていることにあり、この背景には木材加工会社がコストを負担することが出来ないこと、国際競争力のある商品に加工できていないことにあると思われる。この課題解決は個々の努力では難しく、国策として国産材利用への支援が必要と考える。
 現在の進め方の問題の共有・意見交換だけでは問題解決に向けての進展が期待できないと考える。大型製材所等の稼働等により、川下側の設備は整ってきていることから、川上側の取組みを議論する必要があると考える。
- 木材を出荷している生産者側の意見をもっと多く頂けたらと思う（直送をしている事業者の問題点等）。
- 外材の動向について情報が定期的に欲しい。
- 再造林推進について。
- 早生樹造林について。
- 木材価格高騰に関する国内住宅産業、木材産業への影響の見通しについて。
- 外材の輸入量減少、価格高騰の影響を受けて、国産材は製品の価格が上昇し、品不足が深刻化している旨の報道が頻繁にみられる。このような情勢に対応するため、今後、国産材製品の安定供給を目指し、国産材の需給調整が円滑に行われるための、高い効果が見込まれる対策について議論する必要があると考える。
- ウッドショックにより、外材を扱っているプレカット工場がスポット的に国産材を利用する動きが見られることから、これをチャンスと捉え、プレカット工場や工務店等とも意見交換をするなど、広くニーズ把握を行ってはどうか。

九州

- 国産材の中長期的な需要の傾向をどう判断されているか教えていただきたい。
 - 原木価格が上昇することは、素材生産事業者にとって収益面から喜ばしい面がある。一方、問題点として、新規伐採業者参入等による無理な伐採作業によって収益を高めようとするのが、労働災害の発生や誤伐・盗伐の発生になるのではと懸念される。
 - 需給情報を共有する場を設けることには賛成だが、事前のアンケート調査結果(現状、見通し)等から、国や県がどのような対策を検討しているか(補正等)も、その場で示して頂けるとありがたい。
例) 価格的な補償、輸入材→国産材へ転換させるためのさらなる施設整備、需要拡大策等
 - 今回の外材から国産材へのシフト、価格の上昇を一過性のものではなく、これを国産材への大転換とするためには、国や行政、我々業界は何をどうすればいいのかを話し合うべき。
 - 地元事業者・労働者を守るため、情報共有と必要な制度創設を求める。
 - 生産量の増大や施設の拡大については、生産のターゲットがあつてからその取組になるため、需要が見通せない中では踏み出せないのが現状ではないか。生産品目の種類によっても取組は異なってくると思われる。
 - 昨年に引き続き、世界的な新型コロナウイルス感染症拡大に起因する木材流通への影響は大変大きく、変化のスピードも速いため、需給情報連絡協議会で得る情報は、大変役に立つものが多いので引き続き情報の集約と発信をお願いしたい。
 - WEB 会議に参加できなかった場合、後日、WEBにて録画視聴できたらありがたい。
 - いつも情報提供を頂き助かっている。木質バイオマス発電事業は、林業経済の「主役」ではなく、あくまでも材価底支えの為の「道具」である。国内材(A材 B材)需給バランス維持をベースに林業が地方を支える基幹産業になってほしいと願っている。
 - 原木の安定供給、森林認証の推進、外国人労働力の門戸を開く。
 - 本県の公共建築物の建設にあたっては、木材が集荷しづらい状況となっている。当協議会で議論される貴重な意見等を需給対策の参考としていきたい。
 - 今回議題に上がっている木材不足への対応状況について、現状・今後の見通しを含めて共有したい。
 - ウッドショックによる「現在の影響」及び「今後の見通し」について、下記内容について情報共有していただきたい。
 - ・原木市場: 価格と出材量の状況
 - ・素材生産業: 出材状況、販売状況、山の買取価格状況、在庫状況(山の買取状況)
 - ・製材業: 生産状況、販売状況、製品価格状況、素材の確保状況
 - ・プレカット: 受注状況、価格状況、稼働状況(制限の有無など)
 - ・ハウスメーカー: 受注状況、価格状況
 - ・流通業者: 国産材と輸入材の流通状況今回の状況を契機に、外材から国産材にシフトしていく上での課題と対策についての議論をしていただきたい。
-

2. 今年度の支部別需給情報連絡協議会（又は類似の会議）の開催状況

※支部別需給情報連絡協議会は、都道府県単位の関係団体等が必要に応じて設置することとしている。

以下には、支部別需給情報連絡協議会又はそれに類する関係団体等による会議を開催している（予定を含む）都道府県について記載した。

（地区）	（都道府県名）	（開催済み又は開催予定の場合、その概要）
北海道	● 北海道	会議名：第6回北海道林業・木材産業 新型コロナウイルス対策に関する連絡会議 開催日時：令和3年4月20日（火）14:00～15:30（Web会議開催） 構成員：林業・木材産業関係団体・企業、北海道森林管理局 事務局：北海道水産林務部 議案：第5回会議（R3.1.15開催）以降の需給状況について 令和3年度新型コロナウイルス対策について 本道の林業・木材産業を取り巻く情勢を踏まえた新たな課題について 今後の対応方向について 当該会議の資料及び開催概要については、北海道水産林務部林業木材課ホームページ内で随時公表
東北	● 岩手県	会議名：県産木材供給連絡会議 日時：令和3年4月21日（水）9:30～11:00 出席者：森林管理署、県国生連、県森連、NJ素流協、県森林整備協、県木産協、 県林業振興課 内容：輸入木材急騰の影響等について、関係機関で情報共有を図った。 ※ 以後、4～5回開催予定
	● 宮城県	県内の輸入木材高騰に関する影響等について意見交換（R3.6.9）。
	● 山形県	詳細について検討中。
関東	● 福島県	住宅建築において木材の不足及び価格高騰が顕在化しているため、川上、川中及び川下の関係者により意見交換を行う。
	● 茨城県	開催予定（日程未定）。
	● 栃木県	現在、県内川上・川中・川下の団体及び事業者を通じて、ウッドショックの影響による木材需給動向について、随時、状況把握に努めているところであり、必要に応じて協議会を開催し、各業界の状況等について情報交換を行う。
	● 埼玉県	埼玉県内の森林組合、素材生産業者等を対象に、ウッドショックについての情報提供、木材生産の進捗状況及び木材生産に係る課題の共有等を目的に開催する予定。
	● 千葉県	5月28日に、千葉県木材利用ネットワークの会議があり、川上から川下までの事業者が木材関係の情報交換を実施。
	● 神奈川県	6月21日に「県産木材の販売及び需給調整等にかかる打ち合わせ会」を開催予定（主催県森連）。 概要 ・神奈川県自然環境保全センターにおける出材について ・県森連林業センターへの出材について ・間伐材搬出に係る需給調整について
	● 新潟県	需給情報等の共有、意見交換の場として県森林組合連合会が主催する「越後杉素材需給調整連絡会議（平成22年10月設置）」が四半期に1回開催されており、直近では第1四半期分が4月19日に開催された。
	● 静岡県	静岡県森林組合連合会にて、四半期毎に合板用原木の需給調整会議を開催予定。
中部	● 石川県	6月中旬に関係団体等との意見交換の場を設ける予定。
	● 福井県	県産材の需給に関する情報交換会の開催を予定（7月）。 ウッドショックに対する県内の現状、代替としての県産材の利用などの対応策について関係者間の情報共有を図り、今後の木材需給の安定を図る。
近畿 中国	● 三重県	地区別協議会情報の共有や県内の需給動向の把握、新型コロナウイルス感染症の影響などについて、書面またはWEBにより実施予定。
	● 滋賀県	県産木材活用推進協議会により情報共有（月1回程度）。

	● 兵庫県	開催予定(日程未定)。
	● 島根県	各流域林業活性化センターにおいて、川上～川下の関係者が集まり需給情報を含めた意見交換を行う。(時期は地域差あり。)
	● 岡山県	「岡山県木材需要拡大会議」(開催日未定)において需給情報の共有と意見交換を行う予定。
	● 広島県	昨年から、県内の林業・木材産業関連事業者に対し、需給動向等に関する聞取調査を毎月実施するとともに、県産材を集荷し、製材工場に供給する役割を担う木材事業協同組合(県森連、林業経営体、製材工場等で構成)が開催する会議に参加し、需給情報等の共有に努めている。
四国	● 徳島県	徳島県木材協同組合連合会の主催で、県(林務部局、住宅部局)、プレカット、木材販売、製品市場、外材輸入、製材、合板、原木市場、素材生産業者が参加し、ウッドショックによる影響について情報を共有した。
	● 香川県	名称:「県産木材需給調整連絡会」 目的: 原木の伐採から加工までの円滑な流通を図るため、川上と川下の関係者間での需給情報の交換等を目的として、香川県が開催する。 構成員: 県、香川県産木材認証機関、四国森林管理局香川森林管理事務所 開催計画: 3回程度を予定(書面開催等) 検討内容: ・県産木材の需給情報の交換 ・県産木材需給調整における課題と対応 ・県産木材製品の情報提供体制の構築 ・多様な県産木材供給体制の構築 等
	● 愛媛県	6月下旬頃、開催を予定している。
九州	● 長崎県	長崎県地域材供給倍増協議会及び効率的なサプライチェーン構築に係る情報交換会 ・もりんくについて ・木材流通の現状について ・建築物の木造・木質化について
	● 熊本県	県内の関係事業者を参集し、現時点の情報の共有を実施予定。
	● 宮崎県	宮崎県林業・木材産業情報連絡会議 令和3年5月25日に令和3年度第1回会議を開催した。 原木市場、素材生産業、製材業、国有林の状況について、県内林業関係団体等から現状と今後の見通しについて情報提供してもらい、課題について意見交換を行った。 今年8月に第2回目の情報連絡会議を開催する予定としている。
	● 鹿児島県	苗木生産需給調整会議(11月予定)